

Rakuyomi

FRBは3会合連続で0.75ポイントの利上げを決定 ～政策金利の見通しは22年末4.4%、23年末4.6%、24年末3.9%に～

6月以降、0.75ポイントの大幅追加利上げが続く

米FRB(連邦準備制度理事会)は、9月20～21日に開催したFOMC(連邦公開市場委員会)で、3会合連続となる0.75ポイントの追加利上げを決定し、政策金利(FFレートの誘導目標)を3.00～3.25%と、2008年以来の水準としました。

利上げ幅は市場予想通りだったものの、FOMC参加者の見通しやパウエルFRB議長の会見内容が利上げに前向きなタカ派寄りを受け止められ、21日の米国市場では、国債利回りが短期債で上昇したほか、ドルが買われ、ドル・インデックスは20年ぶりの高値を更新しました。その一方、景気鈍化の可能性が懸念され、長期債では利回りが低下したほか、株式相場は下落しました。

インフレ抑制に向け、今後も利上げを継続

左下のグラフの通り、米国では、消費者物価指数が今年6月に前年同月比+9.1%と、1981年11月以来約40年半ぶりの高い伸びを記録しました。その後、インフレ率はやや鈍化したものの、直近8月でも8%台と、FRBが目標とする2%を大きく上回っています。また、右下のグラフに見られる通り、労働市場の需給がタイトで、賃金上昇が続いており、インフレの長期化につながる可能性があります。

こうした中、今回示されたFOMC参加者の見通し(中央値)では、総じて、経済成長率が下方修正、失業率も悪化方向に修正となったほか、インフレ率と政策金利は引き上げられました。つまり、イン

フレ目標の達成までには時間を要し、経済成長の鈍化や失業率の上昇という代償を伴うことが示唆されています。

利上げのピークは4.6%、利下げは24年からか

政策金利の見通しは今年末で4.4%と、市場予想を上回りました。年内残り2回のFOMCで計1.25ポイントの利上げが想定されている形で、次回11月の会合でも0.75ポイントの利上げが決まる可能性があります。また、その後の見通しは、23年末:4.6% 24年末:3.9%、25年末:2.9%となっています。このように、今回の利上げ局面でのピークが4.6%となり、パウエル議長が性急な利下げは避けるべきと繰り返し述べているように、利下げは24年からとなる可能性が示唆されています。

ただし、今後の利上げについては、事前に何も決定されてはならず、パウエル議長は会見で、年内の利上げ幅を計1ポイントにとどめることを支持するFOMC参加者もかなり多いことを強調しました。

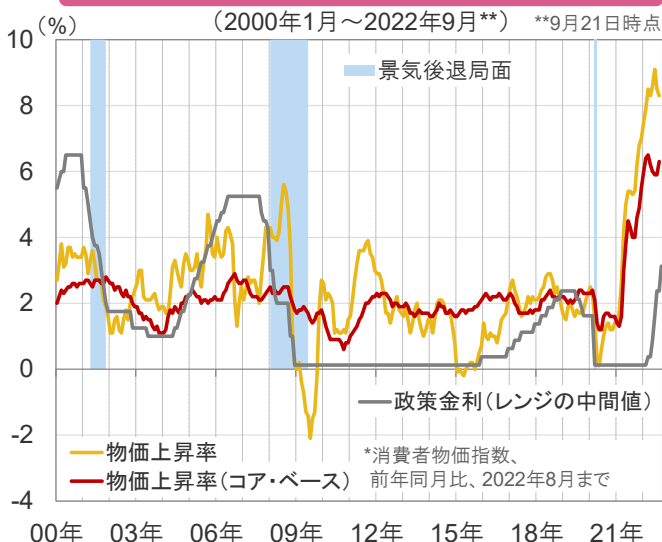
FRBは、今後のFOMCでも毎回、物価や労働市場などの状況を踏まえ、慎重かつ柔軟な舵取りを行なっていくと期待されます。

当面のFOMC開催予定(下段:議事要旨の公表日)

22年10月	11月	12月	23年1月	2月	3月
	1～2	13～14	1/31～2/1		21～22
	(11/23)	(1/4)	(2/22)		未定

下線がある会合では、FOMC参加者の景気・金利見通しが公表される
注:9月20～21日のFOMCの議事要旨の公表は10/12
FRBの発表などをもとに日興アセットマネジメントが作成

米国の物価上昇率*と政策金利の推移



※上記は過去のものおよび予定であり、将来を約束するものではありません。

米労働市場の主要指標の推移



日興アセットマネジメント

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。